

がん、認知症 早期受診の大切さ理解 大館 脳腫瘍学会が公開講座

がんや脳腫瘍、脳卒中、認知症の診断と治療をテーマにした第40回日本脳腫瘍学会市民公開講座が17日、大館市のほくしか鹿鳴ホールで開かれた。脳神経外科医で学会副理事長、成田善孝さん(58) 〓 同市出身 〓 の働きかけで各野の専門医が分かりやすく講演。市民ら約1000人(主催者発表)が聴講し、あらためて早期受診の大切さに理解を深めた。

市民1000人が聴講

国立がん研究センター脳脊髄腫瘍科が主催。秋田大学脳神経外科、市、市教委、北鹿



講演する学会副理事長の成田さん(ほくしか鹿鳴ホール)



大勢が詰めかけ、関心の高さをうかがわせた公開講座

新聞社共催。成田さんが昨年12月、同学会の第40回学術集会(千葉県鴨川市)で会長を務めたのを機に、広く啓もうする場として公開講座を企画。「故郷のために役立ちたい」と準備を進めてきた。成田さんを皮切りに、国内の権威や専門医計5人が登壇

した。成田さんはがんの予防とがん検診を題し「日本人は2人に1人はがんになる。生活習慣や、ウールスなどの感染が原因になることが多い」と解説。禁煙や節酒など生活習慣の見直しで「がんのリスクは減っていく」と強調した。大館市民のがん検診率が県内でも低いことに触れ、検診の重要性も訴えた。がん細胞が1センチの大きさになるのに10〜20年を要するというが、その後さらに大きくなるのは1〜2年。「あつという間に大きくなる。小さい時に見つけるのが検診。少なくとも2年に1回は受けてほしい」と呼びかけた。がの診断を受け

た場合は「自分を責めず、正しい治療の情報を集め、主治医と信頼関係を築くことが大事」とアドバイスした。この後▽「脳腫瘍の診断と治療」永根基雄・杏林大学医学部脳神経外科教授▽「知って得する認知症診療の実践」早期診断の大切さ▽笹嶋寿郎・秋田県立リハビリテーション・精神医療センター副院長▽「脳卒中の診断・治療の最前線」島田直也・大館市立総合病院脳神経外科部長▽「脳卒中の予防」秋田県診療体制」清水宏明・秋田大学医学部脳神経外科教授の講演が続いた。

会場の大ホールは座席の大半が埋まるほど大勢が詰めかけ、高齢化が進む地域で脳の病気などに対する関心の高さをうかがわせた。講師に対し「病気になるやすい家はあるか」「認知症の新薬が日本で使えるのはいつか」といった質疑応答も盛んに行われた。病気の当事者や、支える家族の姿も、東台の女性(74)は「兄弟7人のうち5人が脳の病気になったので、講座に関心があった。講演を聴いてあらためて早期受診の大切さを実感した」と話した。